

第三者評価・普及に向けて

本事業の取組みに対して、直接本事業に携わらない第三者的な立場の学識経験者、行政関係者、企業関係者から4名選出し、評価委員として評価をしてもらう。

評価は、本事業で作成するガイドラインが、全国の専修学校に向けて汎用的なものとなっているかという観点から、合計100点の中での点数で評価する。

評価項目は以下の通りで評価結果は平均点数で表す。

(1) 構成の工夫

評価の観点	配分点	評価
①冊子全体は、読みやすく、分かりやすい構成になっているか。	10	
②必要な情報がバランスよく記載されているか。	5	
③必要な情報が簡単に取り出せるような工夫がされているか。	5	

(2) 内容の工夫

評価の観点	配分点	評価
①実証にもとづく、説得力のある内容になっているか。	10	
②デュアル教育に取り組む気持ちを喚起する内容となっているか。	10	
③最低限、必要な情報は記載されているか。	5	
④失敗事例を効果的に記載しているか。	5	
⑤Q&Aは、冊子の概要版として、分かりやすく作成されているか。	5	
⑥受入企業にも参考となる内容になっているか。	5	

(3) 表現の工夫

評価の観点	配分点	評価
①使用語句や文章は、分かりやすい表現となっているか。	5	
②本文中の図や表などの資料は、適切に配置されているか。	5	
③文字の大きさ、分量は適切か。	5	

(4) 汎用性の工夫

評価の観点	配分点	評価
①全国の建設系専門学校で実現可能な内容となっているか。	10	
②初めて取り組む学校でも、参考となる内容となっているか。	10	
④教育支援ツールは、各学校で活用できるものとなっているか。	5	
合計	100	

【採点の考え方】

配点	優れている	やや優れている	概ねよい	やや不適當	不適當
5点満点	5	4	3	2	1
10点満点	10・9	8・7	6・5	4・3	2・1

専修学校版デュアル教育推進事業・「ガイドライン」の作成

－第三者評価結果－

- 1 評価日時 平成31年1月25日(金) 17:00～19:00
- 2 第三者評価委員 学識経験者 : 1名
行政関係委員 : 1名
企業関係委員 : 2名

3 評価結果(平均点数)

(1) 構成の工夫

評価の観点	配分点	評価
①冊子全体は、読みやすく、分かりやすい構成になっているか。	10	8.3
②必要な情報がバランスよく記載されているか。	5	4.8
③必要な情報が簡単に取り出せるような工夫がされているか。	5	4.5

(2) 内容の工夫

評価の観点	配分点	評価
①実証にもとづく、説得力のある内容になっているか。	10	8.5
②デュアル教育に取り組む気持ちを喚起する内容となっているか。	10	8.8
③最低限、必要な情報は記載されているか。	5	4.5
④失敗事例を効果的に記載しているか。	5	4.3
⑤Q&Aは、冊子の概要版として、分かりやすく作成されているか。	5	4.5
⑥受入企業にも参考となる内容になっているか。	5	4.5

(3) 表現の工夫

評価の観点	配分点	評価
①使用語句や文章は、分かりやすい表現となっているか。	5	4.0
②本文中の図や表などの資料は、適切に配置されているか。	5	4.0
③文字の大きさ、分量は適切か。	5	3.5

(4) 汎用性の工夫

評価の観点	配分点	評価
①全国の建設系専門学校で実現可能な内容となっているか。	10	8.8
②初めて取り組む学校でも、参考となる内容となっているか。	10	9.0
④教育支援ツールは、各学校で活用できるものとなっているか。	5	4.5
合計	100	86.5

【採点の考え方】

配点	優れている	やや優れている	概ねよい	やや不適當	不適當
5点満点	5	4	3	2	1
10点満点	10・9	8・7	6・5	4・3	2・1

評価結果まとめ

(1) 冊子の工夫:17.6点/20点

全体的に高評価を得られていたが、特に、「①冊子全体は、読みやすく、分かりやすい構成になっているか。」と「②必要な情報がバランスよく記載されているか。」が高講評を得られた。

平成29年度との比較では0.6ポイント上昇した。読みやすさと必要な情報のバランスが取れていることが評価された結果となった。

(2) 内容の工夫:35.1点/40点

全体的に高評価を得られていたが、特に、「①実証にもとづく、説得力のある内容になっているか。」と「②デュアル教育に取り組む気持ちを喚起する内容となっているか。」、「③最低限、必要な情報は記載されているか。」、「⑤Q & Aは、冊子の概要版として、分かりやすく作成されているか。」、「⑥受入企業にも参考となる内容になっているか。」が高評価を得られた。

平成29年度との比較では1.9ポイントの減少であったが、高水準は維持しており、デュアル教育に取り組む気持ちを喚起する内容であることや、Q&Aと受入企業への参考となる評価が特によかった結果となった。

(3) 表現の工夫:11.5点/15点

全体的に高評価を得られていたが、特に、「①使用語句や文章は、分かりやすい表現となっているか。」、「②本文中の図や表などの資料は、適切に配置されているか。」が高評価であった。

平成29年度との比較では2.7ポイントの減少であったが、高水準は維持しており、使用する語句などの選定や図と表との配置の工夫が読み手を考えた分かりやすくできている評価結果となった。

(4) 汎用性の工夫:22.3点/25点

全体的に高評価を得られていたが、特に、「①全国の建設系専門学校で実現可能な内容となっているか。」、「②初めて取り組む学校でも、参考となる内容となっているか。」が高評価であった。

平成29年度との比較では0.1ポイント上昇した。参考資料としては十分な内容を盛り込んでいるガイドラインであるとの評価結果である。

【評価委員からのコメント】

- ・全体的に丁寧になられていると思う。文字が多いと読み手の第一印象が下がるので、工夫の余地があるかもしれない。全国の学校で生かされることを期待している。
- ・実践に基づいて工夫を凝らしている。
- ・内容は良いと思う。

といった本ガイドラインに対するコメントがされた。

結果、ガイドラインに対しては、平成29年度より3.9ポイントの現象ではあったが、高水準は維持しており、総合平均点:86.5点/100点という高評価であった。

普及に向けて

第三者評価委員会の評価を受けて、平成29年度と比較すると若干の減少ではあったが、当校が本事業の取り組みは、高水準を維持していることは明確となった。

一方では、企業内実習の取り組みが十分ではない地域での検証が不足している状況であることも否めず、以下の課題が残ったままである。

- ①学生の就職面においては、企業・団体との結びつきは強いが、企業内実習の協力関係構築まで至っていない地域。
- ②企業内実習を実施する上で、単位認定付与について教育課程を工夫取り組みがされず、見学会的な活動に止まっている学校。
- ③資格取得には、企業内実習に授業時間を費やすより、資格取得対策授業に時間をかけた方がよいと、デュアル教育の教育的意義に理解が不十分な学校。

これらの課題解決に向けて、平成30年年度は、実習受入企業からデュアル教育の在り方を意見聴取するとともに、「全国専門学校土木教育研究会」や「デュアル教育推進フォーラム」を開催し、専修学校等から汎用性に向けての批評をいただいた。

そして、上記課題に見あう内容を補うとともに、全国の建設分野の専修学校に活用しやすく参考資料とするために、職種ごと(設計、施工、大工・左官)のガイドライン作成へと取り組んだ。

作成したガイドラインは、平成29年度に作成した内容をさらに改善するべく、企業内実習実施の手続きから企業側と学校側双方の捉え方の要点などについて精査を重ね、企業内実習への取り組みを網羅したものとなっている。

また、デュアル教育の教育的意義についても、学生目線に立ち、説得力のある記載となるよう、創意工夫に努めた。

企業内実習が円滑に行われていない地域や専修学校においては、デュアル教育が専修学校に課せられた重要な教育課題であることを認識し、企業内実習が充実している地域や学校を参考とすることが望ましく、参考としたなかで自らの地域特性を踏まえ、実施できるヒントとなり得る取り組み方法を見出すことが求められる。

本事業で作成したガイドラインは、どの地域の専修学校が見ても活用できるよう作成したものであり、多くの建設系専修学校が本事業で作成したガイドラインを参考とし、充実したデュアル教育を推進することにより、学生や企業にとって有意義なものとなることを望む。